



公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

2018 事業活動報告書

Activity Report 2018

ごあいさつ

次世代を担う青少年の育成を目指して

当財団は、2007年6月、「心豊かでたくましい人づくり」を理念とし、コカ・コーラが事業を日本で開始して50周年を迎えることを契機に、財団法人日本コカ・コーラボトラーズ育英会(1970年設立)とコカ・コーラ環境教育財団(1994年設立)を統合し、多様な社会貢献活動を一元的に運営、推進できる母体として設立されました。5年目を迎えた2011年、「公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団」への移行申請を行い、9月27日付けにて内閣総理大臣より認定通知を受け、新たな一歩を踏み出しました。設立以来、次世代を担う青少年の育成と、彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成を目的とし、教育分野での事業を中心に継続して実施しております。

「奨学支援事業」においては、1966年の開始以来、50年以上も大学生への支援を継続し、これまでに2,326人の卒業生を社会に送り出しております。

「コカ・コーラ環境教育賞」は1994年に設立し、以来25年間、2,000団体以上の応募を受け、環境教育・環境保全活動を支援し、日本の環境教育の推進に多大な貢献を果たしております。

「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は当財団の象徴的な存在の宿泊型体験施設として2010年にオープンし、日本全国から累計で6万人以上の方々にご利用いただいております。

「復興支援事業」としては、震災後8年を経過した「東日本大震災」、震災後3年目となる「熊本地震」の復興のために支援活動を行っております。2017年からは第2ステージとして、岩手県、宮城県、福島県の高校生を対象に、国際社会で活躍し、地域社会へ貢献する人材を育成するための「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を継続して行い、2018年には「熊本地震」の被災地域、熊本県、大分県の高校生のためにも同プログラムをスタートいたしました。また、2018年9月6日に発生した「北海道胆振東部地震」の地域を対象に、甚大な被害を受けられた地域自治体と連携し、課題に即した教育支援活動を行ってまいります。

私ども「コカ・コーラ教育・環境財団」は、社会の変化、価値の変化に即した事業を企画・提供することにより、これからも国際社会が求める青少年の育成と彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成に貢献してまいりたいと考えております。

< 理 念 > 心豊かでたくましい人づくり
(Healthy Active Life)

参加者累計30万人以上

環境教育

地域社会、さらには国際社会において次世代リーダーとなる人材育成の支援を行っています。

- コカ・コーラ環境教育賞
1994年から25年間の応募団体
累計 **2,258団体**
- 雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス
2010年から9年間の利用者
累計 **約6万人以上**

スポーツ教育

青少年を対象に、次世代の育成と指導者育成

- コカ・コーラ出前かけっこ教室/出前体育の授業などで2009年から9年間の参加者
累計 **7,363人**



公益財団法人
コカ・コーラ教育・環境財団
理事長

佐々木 康行

奨学支援

次世代を担う青少年の育成を目的に、高校生に大学生活への奨学支援を行っています。

- 1966年から52年間の卒業生累計 **2,326人**

復興支援

東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震の被災地支援を目的に、コカ・コーラ復興支援基金を設立。さまざまな事業を行います。

- 太陽光発電・蓄電設備の設置助成 設置校累計 **55校**
- ヤングアメリカンズ東北ツアー協賛
参加者累計 **3,100人以上**
- スクールバスの寄贈 **5台**
- 米国・英国でのホームステイ研修 参加者累計 **333人**
- 英語コミュニケーション・スキルプログラム
参加者累計 **910人**

2018年度活動一覧

2018年度も当財団は
日本全国で活動を展開

2018年	
4月	1日：奨学支援事業 2018年度奨学生51人を採用 18日：「第25回コカ・コーラ環境教育賞」の募集開始
6月	20日：「コカ・コーラファンデー」をコカ・コーラ環境ハウスにて北海道内の障がいのある方々を対象に開催 22日：「い・ろ・は・す水源保全プロジェクト」前期助成を23団体に実施 28日：内閣府へ2018年度事業報告書及び収支決算書を提出 30～7月1日：岩手県立高田高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
7月	11日：「第25回コカ・コーラ環境教育賞」の第一次選考会にてノミネート15団体を決定 11～12日：福島県立福島南高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 18日：奨学支援事業 各地の高等学校及び教育委員会に奨学生募集ポスター及び案内を送付 21～22日：福島県立磐城桜が丘高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 28～29日：岩手県立花巻南高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
8月	2～3日：岩手県立大船渡高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 29～30日：東京学芸大学環境教育研究センター「水辺の学びデザインプロジェクト」研修合宿をコカ・コーラ環境ハウスを拠点に実施 31日～9月1日：福島県立白河旭高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
9月	1日：奨学支援事業 奨学生の応募開始 3～4日：宮城県石巻好文館高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 8～9日：福島県立磐城高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 11～12日：東京学芸大学環境教育研究センター「水辺の学びデザインプロジェクト」研修合宿(第2班)を北海道胆振東部地震の影響により中止 14～15日：岩手県立福岡高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 26～27日：宮城県気仙沼高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始
10月	7～8日：宮城県仙台南高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 20～21日：宮城県角田高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 ～12月：奨学支援事業 第1次(書面)選考、第2次(面接)選考を実施 奨学生予定者及び奨学生予備予定者を選定・決定
11月	23～25日：「イングリッシュキャンプ@北海道」をコカ・コーラ環境ハウスにて福島県川俣町と北海道夕張郡栗山町の中高生を対象に実施 28日：「い・ろ・は・す水源保全プロジェクト」後期助成を23団体に実施
12月	15～16日：熊本県立第二高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始 22～24日：「コカ・コーラ環境フォーラム」をコカ・コーラ環境ハウスにて開催 「第25回コカ・コーラ環境教育賞」の最終選考会にて最優秀賞及び優秀賞団体を決定、表彰式を実施

2019年	
2月	12～16日：東海大学「冬季環境保全演習」をコカ・コーラ環境ハウスを拠点に実施
3月	6～7日：大分県立別府翔青高等学校で「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始

い・ろ・は・す 水源保全プロジェクト

コカ・コーラシステム全社からの寄付金をもとに、当財団支部が連携して、全国各地で水資源の保護活動を行っている団体を助成しています。

2017年 全国22団体の活動を支援

2018年 全国23団体の活動を支援

コカ・コーラ環境教育賞

25年にわたり、国内の環境教育の推進に貢献し続けています。

1994年の設立から、今年で25周年。コカ・コーラ環境教育賞は、環境ボランティア活動の助成・支援を通じて、これまで国内の環境教育推進に大きく貢献してきました。2018年度も77団体の応募があり、その中から最優秀賞及び優秀賞を選出しました。

コカ・コーラ環境教育賞に
25年間で合計2,258団体が
参加しています。



第25回コカ・コーラ環境教育賞

主催：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
協力：読売新聞社
後援：文部科学省、環境省

2つの部門で募集を実施

〔活動表彰部門〕

小・中学生とその指導者を対象として、地域社会に根ざした環境教育・環境保全活動の実績を顕彰します。

〔次世代支援部門〕

高校生、高専生及び大学生による環境保全・環境啓発に寄与する新しい企画を評価し、具現化のための支援を行います。

スケジュール

4月18日
募集開始



7月11日
ノミネート15団体を決定



12月23日・24日
最終選考会及び表彰式

8月の開催予定を台風接近のために、12月に延期して実施

第25回の記念大会にふさわしい、熱気あふれる最終選考会がコカ・コーラ環境ハウスで開催されました。

挨拶～祝辞

当財団からの挨拶と来賓祝辞

ノミネート団体の最終プレゼンテーションに先立ち、主催者を代表して当財団の佐々木理事長が開会の挨拶を行いました。また、文部科学省 総合教育政策局地域学習推進課 青少年教育室長 平川康弘氏、栗山町長 佐々木学氏より25周年のご祝辞をいただきました。



当財団理事長 佐々木 康行



当財団理事 小松崎 和夫



文部科学省 平川 康弘 氏



栗山町長 佐々木 学 氏

表彰式

環境省 大臣官房 環境経済課 環境教育推進室室長 河野通治氏よりのご祝辞の後、両部門の最優秀賞・優秀賞の発表がありました。選考委員会による厳正な審査の結果、「活動表彰部門」最優秀賞は福島市立渡利中学校 科学部、「次世代支援部門」最優秀賞は沖縄県立南部農林高等学校 生物資源科 バイオテクノロジー部に決定しました。



選考委員長 小澤 紀美子



環境省 河野 通治氏



最終選考会

参加団体のプレゼンテーション及び質疑応答

「活動表彰部門」ノミネート10団体、「次世代支援部門」ノミネート5団体、それぞれの代表が環境活動の実績や成果、企画を発表しました。質疑応答なども併せて行われ、熱気あふれる時間を共有しました。



参加者プレゼンテーション



質疑応答



最終選考会



活動表彰部門最優秀賞表彰

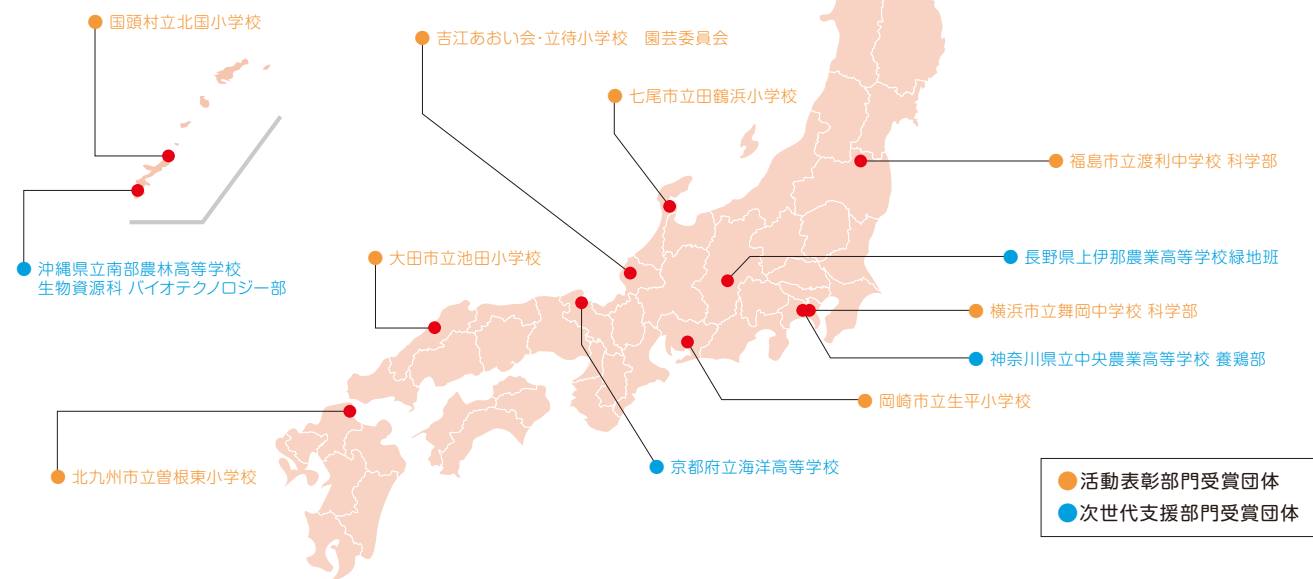


次世代支援部門最優秀賞表彰

第25回コカ・コーラ環境教育賞

受賞団体紹介

2018年度も日本全国からたくさんのご応募をいただき、ノミネートされた15団体が最終選考会に参加しました。



◎最優秀賞

活動表彰部門

福島市立渡利中学校 科学部

活動地域：福島県福島市 代表者：菅野 俊幸氏

主な活動内容：

塩害土壌を植物の力で克服する研究などを実施

さらに微生物により分解される生分解性プラスチックとして活用する研究、低カリウム、低硝酸などの機能性野菜の創造に取り組む。こうした活動の成果を文化祭や各種学会で発表。市民を対象にした実験講座なども実施している。



次世代支援部門

沖縄県立南部農林高等学校 生物資源科 バイオテクノロジー部

活動地域：沖縄県豊見城市 代表者：兼元 竜也氏

主な活動内容：

生産性の高い苗作りと甘藷「ちゅらまる」の普及活動

苗作りについては、バイオ苗作出実験、従来苗との比較栽培試験を実施。また、沖縄県産の新品種、甘藷「ちゅらまる」を普及させるために、イベントでの試食会やレシピ提供、ポスター配布を行うなどの活動を行っている。食育等の観点から小中学校への出前授業も企画。



◎優秀賞

活動表彰部門

栗山キッズクラブ

主な活動内容：水田を調査し多様な生物や外来種存在を発表

食と環境の結びつきが学べる町内のキッズ農園の水田を調査。多様な生物の存在と増殖が危惧される外来種について発表。

活動地域：北海道夕張郡
代表者：南條 宏氏



横浜市立舞岡中学校 科学部

主な活動内容：一時激減したハグロトンボの生態調査を実施

自然環境の良い川に棲むとされるハグロトンボと下水道普及との関係について科学的な検証を行い、国土交通省のプロジェクトで報告。

活動地域：神奈川県横浜市
代表者：宮崎 裕明氏



岡崎市立生平小学校

主な活動内容：愛鳥モデル校として野鳥の保護活動を行う

野鳥を観察して知り、そして保護する活動から自然を学び、里山保全活動を通して自然との共生を図ることのできる児童を育成。

活動地域：愛知県岡崎市
代表者：長坂 博子氏



七尾市立田鶴浜小学校

主な活動内容：野鳥保護や地元の里山再生を通じた環境学習

愛鳥モデル校として、野鳥公園の清掃や、学校に野鳥の休憩場所の設置を行う。学校近くの里山再生にも取り組む。

活動地域：石川県七尾市
代表者：渡辺 芳昭氏



大田市立池田小学校

主な活動内容：絶滅危惧種の多年草を育てて増やす活動

県指定の絶滅危惧種であるバラ科のヒロハノカワラサイコを育て、三瓶山の草原に植え替える活動を継続。地域との交流も行う。

活動地域：島根県大田市
代表者：岡崎 博文氏



次世代支援部門

北海道士幌高等学校 環境専攻班・士幌環境講座

主な活動内容：町内に残るカシワ林の再生・回復を目指して活動

自然の貴重性を訴えることを目的に、カシワ林の再生・回復に向けた調査を実施。行政と連携し、結果を町作りの自然保護計画に活用。

活動地域：北海道河東郡
代表者：中島 綾子氏



神奈川県立中央農業高等学校 養鶏部

主な活動内容：県の奨励品種「はるみ」の栽培を無農薬で実施

歴史のあるアイガモ・アヒル農法を用いて、米の栽培を実施。日々改善に挑戦している。食や農業に関する啓発活動も継続して行う。

活動地域：神奈川県老名市
代表者：大木 志帆氏



ながめま緑の少年団 (河川愛護団体リバーネット21 ながめま)

主な活動内容：森を育てる活動や地域貢献活動に取り組む

地元の森作りに励み、植林だけでなく種子採取、育苗なども一貫して行う。募金活動や町内の清掃活動などにも取り組んでいる。

活動地域：北海道夕張郡
代表者：山本 隆幸氏



吉江あおい会 立待小学校 園芸委員会

主な活動内容：京都「葵祭」に奉納するフタバアオイの栽培

収穫量が激減している「二葉葵」の株を上賀茂神社から譲り受けて栽培、奉納。環境問題と地元愛を学びながら活動。

活動地域：福井県鯖江市
代表者：塚田 耕始氏



北九州市立曽根東小学校

主な活動内容：校区内の曽根干潟の環境学習と保全活動

年に2回、干潟の清掃活動を地域住民とともに実施。かつて干潟付近に自生していた絶滅危惧種のシチメンソウの育成も行う。

活動地域：福岡県北九州市
代表者：古澤 律子氏



国頭村立北国小学校

主な活動内容：絶滅危惧種「ヤンバルクイナ」の保護活動を展開

沖縄県北部の山原(やんばる)だけに生息する鳥「ヤンバルクイナ」の保護活動を通して、環境との共存への関心を高めている。

活動地域：沖縄県国頭村
代表者：金城 明美氏



長野県上伊那農業高等学校 緑地班

主な活動内容：地域資源であるアカマツの有効利用を研究

地域内で多く放置されているアカマツ林を活かすために、「アカマツ端材チップ炭」やアカマツ端材を利用した「混合発酵堆肥」を開発。

活動地域：長野県上伊那郡
代表者：山下 昌秀氏



京都府立海洋高等学校

主な活動内容：阿蘇海の課題を解決し世界遺産登録を目指す

宮津湾と隔絶された内海を再生するために啓蒙活動を実施。アワビなどの外敵ヒトデの駆除や堆肥化にも成功し、商品化されている。

活動地域：京都府宮津市
代表者：矢野 誓作氏



雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス

北海道夕張郡栗山町の廃校を宿泊可能な施設として再生した「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、北海道夕張郡栗山町、地元のNPO法人雨煙別学校と公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団とが連携して運営し、教育の機会を提供して9年が経ちます。自然環境や農業環境を活かした体験型の環境教育プログラムを構築・展開し、全国の次世代を担う青少年の育成の場とすることを目指します。



グランドオープン以来、日本全国のみならず、世界中から6万人以上が来場しています。



体験型の環境プログラムの拠点として、多くの企業、団体、学校が利用しています。

活動紹介①

コカ・コーラファンデー@北海道

2018年6月20日(水)

札幌や千歳などから障がい児と家族やボランティアスタッフ総勢80人が参加。テラスでの昼食で親睦を深めました。また、参加者は紙粘土でのクラフト体験学習を楽しみました。



クラフト体験学習



集合写真

活動紹介②

イングリッシュキャンプ@北海道

2018年11月23日(金)～25日(日)

東日本大震災の被災地、福島県川俣町と栗山町の中高生24人を対象に、英語のコミュニケーション能力を向上させる3日間の研修プログラムを開催しました。



外国人講師と会話



集合写真

全国の次世代リーダーの育成・交流拠点

栗山町長 佐々木 学氏

公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団のご支援により再生された本施設は、人と自然が共生する町づくりを進める栗山町が誇る財産であり、現在では、小中学校等の教育活動はもちろん、自然・文化・スポーツなど幅広い分野における都市農村交流の拠点としても活用されています。「コカ・コーラ環境フォーラム」などを通じ、全国から集う青少年たちが、本町の官民協働の自然・里山再生活動などから学び、相互に交流され、それぞれの地域の次世代リーダーとして成長されることを心から願っております。



社会で活躍できる人材の育成を

栗山町教育委員会 教育長 南條 宏氏

再生10周年を迎えた「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」は、体験型宿泊施設として町内の子どもたちはもとより全国各地から多くの方が訪れ、自然体験を中心としたさまざまなプログラムを活用されています。また、栗山町が進める「ふるさと教育」の拠点施設として、今ではなくてはならない施設となっています。次世代を担う子どもたちが、「雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウス」での活動により、何事にもたくましく挑戦し、全国各地や世界の方々と交流する機会を通して、社会で活躍できる人材へと成長することを願っています。



活動紹介③

コカ・コーラ環境フォーラム

2018年12月22日(土)～24日(月・祝)

「第25回コカ・コーラ環境教育賞」受賞者と指導者、地元栗山町、札幌市内の一般参加者を対象に、自然体験プログラムなどを実施。栗山町教育委員会の協力のもと、大学生8人がボランティアスタッフとして運営をサポートしました。

12月22日 オリエンテーション

壁新聞の前で自己紹介

参加者が事前に作成した壁新聞の前で、自己紹介と合わせて団体の活動紹介を行った。



夕食会で各団体が交流

バイキング形式の夕食会で各団体の懇親をはかるとともに、各参加者に用意した名刺の交換などで交流を深めた。



12月23日 体験学習

ハサンベツとオオムラサキ館での体験学習を実施

栗山町のハサンベツ里山を散策しながら環境保護への取り組みや植生、生き物などについて学習。また、積雪していたので雪上ウォークも実施。その後、オオムラサキ館で生き物などを紹介。



「水の旅」プログラムを実施

大学生による「水の授業」を実施。北海道コカ・コーラボトリング社の水資源保護への取り組みを学び、硬水と軟水の飲み比べなどを行った。

◎当日は、コカ・コーラ環境教育賞 最終選考会も行われました。



12月24日 成果発表

3日間のラップアップ

受賞者はフォーラムの3日間で体験したこと、他の団体の活動から学んだこと、そしてそれらの体験を地元を持ち帰ってどのように活かしていきたいかを発表。

◎当日は、コカ・コーラ環境教育賞 表彰式も行われました。



大学ネットワーク

「環境マインドを持った次世代のリーダー」育成を目指し、コカ・コーラ環境ハウスを舞台に、これまで東京学芸大学、東海大学、東京大学、慶應義塾大学他のフィールドワークを中心とした環境・教育プログラム支援活動を実施しています。



東京学芸大学環境教育研究センター

プログラム名

水の学びデザインプロジェクト

2018年8月29日(水)・30日(木)

東京学芸大学の学生が、「水の学びデザインプロジェクト」研修合宿を実施。ハサンベツ里山にて、「Water Neutrality」をテーマに夕張川や湿原の再生、魚道作りなどの体験学習を行いました。



東海大学

プログラム名

冬季環境保全演習

2019年2月12日(火)～16日(土)

東海大学の生徒が「利雪」をテーマに演習を実施。北海道コカ・コーラボトリング札幌工場の見学、コカ・コーラ環境ハウスでのワークショップ、農業体験などを通して持続可能な地域づくりについて学び、考えました。



大学生がボランティアスタッフとして運営をサポート

コカ・コーラ環境教育賞

大学生8人が、表彰式の司会や進行のアシストまで幅広くサポートを行いました。



コカ・コーラ環境フォーラム

環境体験プログラムや懇親会などで司会や進行をサポートしました。



青少年に対する教育支援

コカ・コーラの奨学支援事業は、1966年に開始しました。コカ・コーラが日本で事業を開始して11年目にあたり、当時、日本国内では大学進学率が平均して25%にも満たない時代でした。1970年からは全国のボトラー各社と日本コカ・コーラが共同で、毎年全国から推薦された成績優秀な高校生に大学在学期間中、返済及び将来の就職等についても義務がない奨学金を授与しています。この事業は向上心あふれる学生に、教育の機会を提供するものとして50年間以上継続して実施しています。今後も国際社会が求める青少年の育成、また地域社会を支える人材の育成に貢献することを目的として、人物・学力ともに優れ、かつ向上心に燃えながら経済的な理由により大学への進学が困難な事情にある高校生の進学を支援してまいります。

52年間で合計2,326人の卒業生を支援しています。

2018年度は奨学生51人を採用し、本人及び入学する大学長、出身高等学校長へ決定を通知しました。次年度の募集は、告知ポスター等にて、財団支部を通じて行います。広報活動として「鳳鳴」を制作し、財団役員、奨学生、卒業生、各支部へ配布しました。



奨学生の声

誇りと感謝を忘れず、
大学生生活を「一瞬懸命」に。

照屋 竜馬 (福岡大学 スポーツ科学部)
私は奨学支援のおかげで、かけがえのない4年間を過ごすことができました。そして今春、中高保健体育の教員免許状を取得することができ、福岡の特別支援学校での常勤講師も決まりました。そんな私の座右の銘は「一瞬懸命」という言葉です。一生懸命ではなく、目の前の一瞬に全力で取り組む。一瞬懸命で4年間を過ごしてきたからこそ、今があると思っています。楽しいことだけでなく、辛いことも多々あるかも知れませんが、自分が奨学生であることに誇りを持ち、支援してもらえることに最大限の感謝をして、前向きに、明るい未来へ進んでいってほしいと思います。

少しでも興味があることは、
とことん突き詰めて。

衣斐 菜々 (琉球大学 医学部)
私は春から、大阪の病院で初期研修医として働く予定です。6年間、奨学生として充実した日々を過ごした経験から、私なりの思いを皆さんに伝えたいと思います。それは、少しでも興味があることを見つけたら、とことん突き詰めていってほしいということです。大学生という立場は、思っている以上にどんなことでもできます。もし合わないと思えば、やめてしまっても構わないと思いますが、突き詰めたその先には尊敬できる先生や友だち、先輩との出会いがあります。その出会いを楽しみながら、大切にしていってほしいと思います。それが好きなことを見つけたら、就きたい仕事を決めるということにも繋がると私は思います。

やりたいこと学びたいことを
自ら見つけて行動する。

荷川 取歩 (琉球大学 法文学部)
私は教員になるために、琉球大学と通信大学の両方で学んでいました。そして無事に教員免許を取得し、沖縄県の小学校の採用試験にも合格しました。結局、教員の道は選ばず、企業に就職することを決めましたが、大学で関心を持った事柄にはこれからも参加し続けたいと思います。親に頼れない私にとって、奨学金はとても心強いサポートでした。いつも感謝の気持ちを忘れず、やりたいことや学びたいことを自ら見つけて行動し続けることで、学校生活は充実したものになりました。これから大学へ行く皆さんにも、楽しく学べる環境と、素敵な人々との出会いがあることを心から願っています。

英語コミュニケーションスキル研修プログラム

2011年に当財団に設立された「コカ・コーラ復興支援基金」では、被災地の復興支援を行うためにさまざまな事業を行っています。2017年度からはその一環として、被災地域の高校生を対象に「地元の魅力を海外の人々に発信できる人材育成」を目指し、外国人スタッフや留学生のサポートを受けながら英語コミュニケーションスキルの向上を目指すプログラムを実施しています。第2期となる2018年度は、岩手・宮城・福島県、熊本・大分県の14校の高校生576人が参加しました。

プログラム概要

1 ファシリテーターと留学生による体験型プログラム(2日間)

- 5～6人のグループに分かれてプログラムを実施
- 英語を用いたコミュニケーションと課題への取り組みを発表
- アンケートによるフィードバック

2 オリジナル教材による自己学習プログラム(3～6ヵ月間)

- 継続して自己研鑽するためのツールとして学習教材を提供
- 自身や学校、地元、県内の観光地などを英語で紹介できるように自己学習
- 主催者側にて課題を採点し、フィードバック
- 実地研修を行う一定期間前にクラスで準備授業を実施(学校主導)

3 現地近郊観光地、もしくは東京での英語観光ガイド実地研修(1日)

- 体験型プログラムで、自己学習の成果を発揮する場を提供

プログラム
修了証を授与

東北3県・実施校12校の活動紹介

[後援] 岩手県、岩手県教育委員会／宮城県、宮城県教育委員会／福島県、福島県教育委員会

●参加者の声

授業では絶対にできない充実したプログラムであり、生徒がこうした貴重な経験を通して英語力を伸ばしただけでなく、英語学習への意欲と自信を身につけたのが大きな成果です(教員)。

英語にとっても興味があったのですが、英語圏の人たちとの交流には一歩踏み出せずにいました。おかげで本物の英語で交流ができ、自分でも不可能じゃないと思えるようになりました。

日本語が話せないのが普段より頭を使ったし、他の人のスピーチを聞いて自分に足りないものわかりました。困った時にサポートしあうことで、お互いを高められた気がします。

● 2018年度実施12校
● 2017年度実施6校

岩手

岩手県立花巻南高等学校

2018年7月～2019年2月／1年生38人参加



岩手県立大船渡高等学校

2018年8月～2019年2月／1～2年生35人参加



岩手県立福岡高等学校

2018年9月～2019年2月／1～2年生39人参加



岩手県立高田高等学校

2018年6月～2019年3月／1～2年生39人参加



宮城

宮城県気仙沼高等学校

2018年9月～2019年4月予定／1～2年生47人参加



宮城県仙台南高等学校

2018年10月～2019年2月／1～2年生64人参加



宮城県石巻好文館高等学校

2018年9月～2019年3月／1～2年生40人参加



宮城県角田高等学校

2018年10月～2019年2月／1～2年生36人参加



福島

福島県立福島南高等学校

2018年7月～2019年2月／1年生43人参加



福島県立磐城高等学校

2018年9月～2019年3月／1～2年生40人参加



福島県立白河旭高等学校

2018年8月～2019年2月／1～2年生45人参加



福島県立磐城桜が丘高等学校

2018年7月～2019年3月／1～2年生35人参加



英語コミュニケーションスキル研修プログラム

熊本・大分での実施校2校の活動紹介

グローバル感、異文化を学ぶことで、ネイティブからの経験や国に関することを聞けて、大変良い経験になったと思う。(教員)

●参加者の声

留学生の方とずっと英語で会話をしていたので、自分ではスキルアップしたと思います。ただ、スキルも大切だが、伝えようとする積極性も大切だと実感しました。

自分の地元や国の素晴らしさを伝えることができる人は、とても魅力的だと感じました。今回改めて熊本の良さを知り、外国の方に伝えるように発表できてよかったと思います。積極的に英語で話すことも学べました。

熊本

熊本県立第二高等学校

2018年12月15日・16日(2days) / 1～2年生43人参加



大分

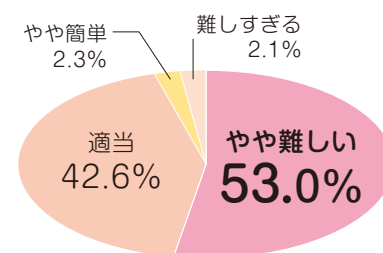
大分県立別府翔青高等学校

2019年3月6日・7日(2days) / 1年生32人参加

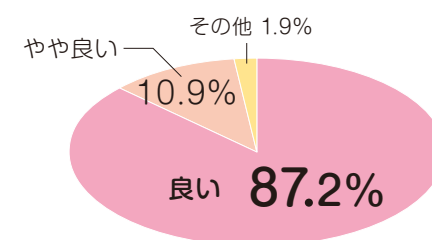


参加者アンケート | 体験型プログラム(2日間)について ※回答数:487人

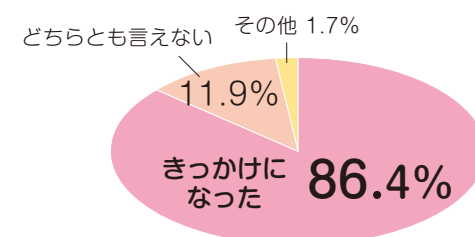
Q.1 難易度



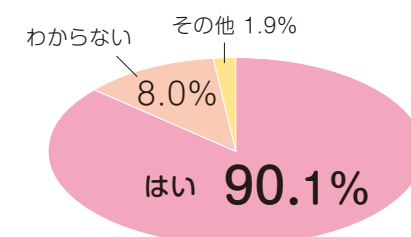
Q.2 留学生とのグループワーク



Q.3 自分の将来を考えるきっかけになったか?

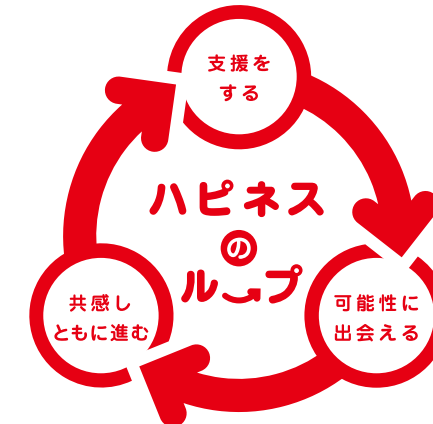


Q.4 次回参加希望



これまでのコカ・コーラ復興支援基金事業活動

つなげよう、ハピネス



2011年3月24日に当財団内に設立された「コカ・コーラ復興支援基金」は、東日本大地震、熊本地震、北海道胆振東部地域地震によって被害を受けられた被災地の復興支援を目的に、青少年の教育支援・生活復興に必要とされるプログラムや物資の提供などさまざまな事業を行っています。

2017年度からは東日本の被災地域の高校生を対象にした「英語コミュニケーションスキル研修プログラム」を開始。2018年度からは熊本県・大分県でも開催しました。また、北海道胆振東部地震により甚大な被害を受けた地域を対象に、青少年育成・教育事業の助成実施を決定しました。

これまでの主な復興支援活動(2011年～2018年) **約21,000人以上が参加**

太陽光発電・蓄電設備の設置助成

岩手・宮城・福島県の公立小・中学校を対象に実施。同時に、子どもたちへクリーンエネルギーを通じた環境教育と、地域の緊急避難場所への防災対応機能の整備を支援しました。



米国・英国でのホームステイ研修

岩手・宮城・福島県の高校生・中学生を対象に、グローバルな視野を持つ人材の育成及び教育支援の一環として、海外でのホームステイ研修プログラムを提供しました。



英語コミュニケーションスキル研修プログラム

2017年度から地方自治体や教育委員会、地元のNPOや大学、企業といった協働パートナーとの連携によりプログラムを実施しています。第1期は、岩手・宮城・福島県の6校294人の高校生が参加しました。



- ◎ その他、スクールバスの寄贈、ヤングアメリカンズ東北ツアー支援などを実施。
- ◎ また新たに、東日本大震災の被災地である福島県川俣町の中高生を対象に、英語のコミュニケーション能力を高める3日間の研修プログラム「イングリッシュキャンプ@北海道」を開催。

北海道胆振東部地震の被災地域を対象に
青少年育成・教育事業の助成実施を決定しました。



財 団 概 要

名 称：公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
英 字 名 称：The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation
設 立：2007年6月25日
公益財団法人移行日：2011年9月27日
所 轄 行 政 庁：内閣府
設 立 代 表：縄英明
所 在 地：東京都港区六本木6-2-31
役 員 一 覧：理 事 長 佐々木 康行
常務理事 北島 伸一郎
理 事 青木 庸三
理 事 古賀 靖教
理 事 小澤 紀美子
理 事 小松崎 和夫
理 事 菅野 耕自
理 事 高梨 圭二
理 事 馬場 久萬男
理 事 谷村 邦久
監 事 寺尾 仁之
監 事 山田 洋一
評 議 員 池田 延行
評 議 員 稲垣 晴彦
評 議 員 岡本 繁樹
評 議 員 高橋 俊夫
評 議 員 並木 茂夫
評 議 員 原 幹弘
評 議 員 柊 巖
評 議 員 堀部 定男
評 議 員 宮林 茂幸
評 議 員 望月 千世子
評 議 員 安井 至
評 議 員 米村 洋一
(2019年4月1日現在)

<https://www.cocacola-zaidan.jp/>



この事業活動報告書では、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団が行った、2018年4月～2019年3月までの活動内容を記載しています。

2018事業報告書は下記URLからもご覧いただけます。

<https://www.cocacola-zaidan.jp/summary/pdf/ActivityReport2018.pdf>

